

★今週の聖句

「収穫は多いが、働き手が少ない」

マタイによる福音書 9:37

★ねらい

- ① 人の「同情」、神の「同情」について考える。
- ② イエス様の同情（憐れみ）は慰めだけではなく、生きる力を与えること知る。
- ③ 弟子達はイエス様に励まされ、その生きる力を伝えたのである。

★説教作成のヒント

- ・イエス様の弟子派遣のきっかけが「憐れみ」であることに注目する。
- ・収穫とは何を指すのかを思い巡らしながら日課を読む。

★豆知識

「使徒」…遣わされたのは無学な普通の人（使徒 4:13）であった。

「平和があるように」…もともと「シャローム」（平和）というユダヤ人の普通の挨拶であったが、聖書はその元の意味を重く見、主の与えられる平和（ヨハネ 14:27）として考えている。

★説教

みなさんは「同情」という言葉を知っていますか？

そうですね、今日の福音書の日課のところに「群集に同情する」という題がついてますね。

ではみなさんにとって「同情する」という言葉は良い言葉ですか、それとも悪い言葉ですか？

同情されたらうれしいですか？（みんなの意見を聞いてみる）

色んな意見がでましたね、では、辞書を調べてみましょう。（国語辞典を取り出して）国語辞典には「他人の苦しみ・悲しみ・不幸などを同じように感じ、思いやり・いたわりの心をもつこと。かわいそうに思うこと。」と書いてあります。イエス様は、ここで群集をみて、かわいそうに思い、思いやり・いたわりの心をもったのです。なぜなら、イエス様が行った町や村、またイエス様のまわりには、弱っている人や悲しんでいる人、苦しんでいる人や疲れている人が本当にたくさんいたからです。イエス様はそんな人たちのために神さまの言葉を伝えて励まし、病気を治し、悩みを聞いてあげました。それでも、弱っている人や苦しんでいる人はまだまだたくさんいました。イエス様はそんな一人一人に同情し、そして、そんな人々をがたくさんいる世界に同情したのです。

そしてイエス様は、お弟子さんたちを呼んで言いました。「私一人が、どんなに励まして、どんなに病気を治しても、弱っている人や苦しんでいる人はまだまだたくさんいる、福音を必要としている人はまだまだたくさんいる、そんな人たちを励ますために、そんな人たちの病を治すために、私の力をあなたがたにわけてあげよう、私がそうしたように、あなたがたも神さまの力によって人々を励まし、癒しなさい」

今日の福音書の日課には載っていませんが、お弟子さんたちはこのイエスさまの言葉を聞いて、勇気づけられ、イエス様のお言葉どおり、イエス様の御用のために一生懸命働きました。

それではここで質問です。私たちの周りや世界を見回してみて、「弱りはて、打ちひしがれている人」はいますか？「弱っている人や悲しんでいる人、苦しんでいる人や疲れている人」はいますか？そうですね、もしかしたらお友達がとても悲しんでいたりと、とても悩んでいるかもしれませんね。もしかしたら世界のあちこちで戦争で追い出され、おなかがペコペコで弱り果てている人や地震や台風で家族の誰かが死んでしまって悲しんでいる人がいるかもしれませんね。そうです、イエス様は今の世界を見ても「収穫は多いが、働き手が少ない。」とおっしゃるに違いありません。もちろん、私たちの目には見えませんが、イエス様は今も、色んなところに行って、悲しんでいる人を励まし、病気の人に力を与え、苦しんでいる人に希望をお与えになっています。またまたもちろん、この言葉に続く「収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」という言葉も、きっとおっしゃていることでしょう。その言葉は、教会に集まっている私たちに向けて語られています。2000年前がそうであったように、今、イエス様を信じる私たちに対しても、イエス様は同じように語り、励まし、イエス様の御用のために働きなさいと、私たちにお命じになります。

私たちも、同時のお弟子さんたちのように、このイエス様の言葉を聞いて、勇気づけられ、弱っている人や悲しんでいる人を励まし、悩んでいる人や苦しんでいる人にみ言葉を伝え、イエス様の御用のために一生懸命働きましょう。

#### ★分級への展開

##### さんびしよう

\*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 2 番

改訂版 1 2 1 番

##### やってみよう

『小さいみんなも働き手になろう！』

小さな子ども達にもできる、お手伝いを考えてあげてくださいね。

例 1) 場所を決めて、お掃除しよう。

例 2) 病気の人にお手紙を書こう。

例 3) 配膳のお手伝いをしよう。

##### はなそう

9 章 35-36 節を読んで、イエスさまの時代の人々について、どのような状態だったか想像してみましよう。

イエスさまの存在は、苦しんでいる人々にとってどういうものであったか想像してみましよう。

今私たちが生きている時代でも、病気や困ったことや心の悩みで苦しんで、癒しを求めている人がたくさんいます。心に寂しさや孤独を感じて、平安や愛を求めている人々もいます。ある時、私たちがその中の一人であるかもしれません。

あなたにとってイエスさまはどんな存在ですか？

★今週の聖句

「蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい」

マタイによる福音書 10:16

★ねらい

- ① 蛇も鳩と、その特性を活かした神さまのための働きを知る。

★説教作成のヒント

- ・イエス様の言葉を、宣教（打ちひしがれた弱い人々のところへ生きる力とどける）のアドバイスと受け止める。
- ・説教では触れなかったが、10:26以下のイエス様の支えが宣教の原動力となる。

★豆知識

「1アサリオン」…1デナリオン（労働者の一日の平均賃金）の1/18。

「ベルゼブル」…本来の意味は「君であるバアル」。ここでは悪霊たちの首領の意味。

★説教

先週の日曜日、私たちは、イエス様が「弱りはて、打ちひしがれている人」のところへ行き、励まし、病気を治し、み言葉によって生きる力を与えられ、お弟子さんたちをイエス様の御用のために遣わした物語と一緒に読みました。

今日の聖書には、お弟子さんたちが一生懸命、イエス様の御用のために働けるように、具体的なアドバイスが書いてあります。イエス様は「蛇のように賢く、鳩のように素直になりなさい。」と、お弟子さんたちにアドバイスしました。

みなさんは、聖書の中にどんな動物が載っているか知っていますか？そうですね、色んな動物が登場しますね。その数は100種類以上だと言われています。

それでは、ここで問題です。聖書の中で一番最初に登場する動物は何でしょう？（すばらしい！orこれはちょっと難しかったですね）答えは蛇です。そしてこの蛇は「獣のうちで最も賢い（創世記3:1）動物でした。蛇は知識もあり、頭の回転も速い動物でした。創世記で登場する蛇はその賢さを自分のために用いたために神さまから罰を受けましたが、イエス様がここでおっしゃっているのは、自分のためにではなく、神さまの御用のために蛇のように知識を用いて、気転を利かして働きなさいということです。

「では、鳩のように素直に」とはどういうことでしょうか？鳩も聖書によく登場する動物です、鳩が出てくる聖書の物語をみなさんはいくつ知っていますか？（すばらしい！orこれはちょっと難しかったですね）一番有名なのはノアの箱舟の物語で、ノアさんが水が引いたことを確かめるために鳩を飛ばした物語かな。あと、イエス様が神殿の庭でいけにえの鳩を売っていた人たちを叱る物語かな。そして、この二つの物語の鳩はどちらも神さまの御用のために登場します。「鳩のように素直に」とは、鳩のように素直に神さまの御用のために働きなさいということです。

たっちゃんは小学校の3年生です。毎週日曜日に教会学校に行って牧師先生から聖書のお話をたくさん聞いていました。今日は牧師先生から『蛇のように賢く、鳩のように素直に』神さまの御用のために働きなさい」という話を聞きました。「でも、僕は蛇のように賢くもないし、鳩のように素直でもないのに、どうやって神さまのために働けばいいんだろう？」と牧師先生のお話を聞きながら考えていました。教会学校が終わって、お友達とお昼ご飯の後で遊ぶ約束をして、急いで家に帰るその途中、たっちゃんは一人の外国の人に出会いました。たっちゃんは日本語しか話すことが出来ませんが、その外国の人が地図や写真を見て考え込んでいる様子を見て、その人が美術館に行きたいのに道に迷って困っていることがわかりました。美術館はたっちゃんの家とは反対方向で、その人を連れて行ったら友達との約束の時間に間に合いません。「どうしよう、助けてあげたいけど、遊ぶ時間がなくなっちゃうなあ…。僕が助けてあげなくても、他の人がきっと助けてくれるよ」そう独り言を言いながらその外国の人から目をそらして、家に帰ろうとしました。

そのときです！たっちゃんの頭の中に、今日の牧師先生のお話と、「イエス様だったらどうするだろう？」という思いが浮かびました。

「そうだ、自分の思いに素直になるのではなくて、イエス様の思いに素直になることなんだ！」  
そう言うと、たっちゃんは歩いていた方向とは逆に足を向け、まっすぐ、その困っている外国の人のところに向かっていきました。

## ★分級への展開

### さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

53番

改訂版119番

### やってみよう

イエスさまは、イエスさまの教えを伝えるために旅にでるお弟子さんたちに、今日の聖書の箇所のように言われました。

みんなも、ヒツジのようだけどハトのように、また、ヘビのようになってピンチを乗り切ろう！

『ヒツジ・ハト・ヘビ・ゲーム』

- ・ ヒツジとハトとヘビのポーズを決めます。

例えば、

ヒツジは角が曲がっているから、両耳の横に曲げた人差し指をくっつけて『ヒツジ！』

ハトは、体の横に腕をくっつけてパタパタ『ハト！』

ヘビは、片方の手を体の前に、もう片方の手を後にひらひら『へび！』

リーダーが前に立って、『せーの！』で『ヒツジ・ハト・ヘビ』のポーズをします。

リーダーと同じポーズをした人は、座ります。

うまく最後までピンチを乗り切るのはだれかな？

### はなそう

イエスさまは、12人の弟子たちを遣わす時（10章1-15節）に、汚れた霊に対する権能をお授けになり、大切な事をいろいろ教えられました。10章16-33節を読みながら、どんなことを教えられたかを、みんなで書き出してみましょう。

どうして、イエスさまは弟子たちにいろんなことを教える必要があったのだと思いますか？想像したり、考えたりしてみましょう。その頃のことについて牧師さんに聞いたり、資料を調べてみたりするのもいいでしょう。

苦しんでいる人は、イエスさまに助けられたり癒されたりした時、どんな気持ちになったでしょう？体が癒されることは、なにかその人の心にも影響すると思いますか？

★今週の聖句

「わたしのために命を失う者は、かえってそれを得る」  
マタイによる福音書 10:39

★ねらい

- ① 自分の思いを超えたところで働く神様をおもう。
- ② 最後は弟子を受け入れる者についての言及で終わるが、そこでもやはり弟子を「この小さな者の一人」といつていることに注目する。マタイ 25:31 参照。

★説教作成のヒント

- ・これまで、イエス様の弟子として働くアドバイスを受けてきたが、その最後にはその弟子を受け入れる者について語られる。
- ・段落がいくつにもまたがるので、どれか一つに絞ったほうが作成は容易であろう。

★豆知識

「平和」…一般的なユダヤ人の考えでは、メシア到来の前には苦難が増し加わるが、メシアそのものは私たちに恵みをもたらすと考えていた。それは「平和の君」(イザヤ 9:5)と唱えられるべきお方である。主の誕生に際して、天軍は「天に栄光、地に平和」(ルカ 2:14)と歌った。ところが、主は地上に平和をもたらすためではなく、剣をもたらすために来たと言われた。主の与えられる平和は、世が与えるように与えられるものではなかった(ヨハネ 14:27)。表面的な、差し当たり対立のない状態というのではなくて、神との平和はむしろ人々の心に鋭く突き刺さり、分裂さえも起こさせる。腐敗した民の中では、ミカ 7:6 に示されたような分裂や戦いも起こる。そして神を神として、何ものにも増して恐れかしこむことが求められる。

★説教

ここにコップに入った冷たい水があります。

イエス様は、もしあなたがイエス様のお弟子さんに、イエス様のお弟子さんであるという理由でこの一杯の冷たい水を飲ませてあげたなら、そのことを大変お喜びになると言われます。

昔、あるところにマルチンという靴屋さんがいました。

マルチンさんは妻も子どもたちもマルチンさんより先に死んでしまい、今はたった一人ですんでいました。

マルチンさんは、以前お客さんである牧師さんが置いていった聖書を毎日読んでいました。そして、いつかイエス様と会いたいものだと思っていました。

そんなある日の夜、夢の中に現れたイエス様がマルチンにこう言いました。「マルチン、明日、おまえのところに行くからね」。次の日、マルチンはイエス様を迎えるために暖かい紅茶とスープをつくり、パンを買ってきました。そして部屋を掃除して、いつイエス様が来てくれてもいいように準備をしてから仕事につきました。すると『ザツ、ザツ、ザッ、ザッ』雪をかく音がします。外を見ると、

寒そうに雪かきをしているおじいさんがいます。マルチンはそのおじいさんを家に迎え入れて紅茶をご馳走しました。

おじいさんが帰ってまた仕事に戻ると、今度は赤ん坊の鳴く声が聞こえます。こんどは赤ちゃんを抱えた貧しいお母さんが赤ちゃんをあやしながら歩いていました。マルチンさんは出て行って、その親子を家に迎え、暖かいスープとパンをあげました。

まだかまだかと、イエス様がおいでになるのを待っていると、今度はおばあさんと子どもがけんかをしているような声が聞こえます。その子どもは、おばあさんの籠からリンゴを奪って逃げようとしたのです。マルチンさんは出て行って少年のためにとりなしをして、いっしょに謝りました。

そうして、一日が終了しましたが、とうとうマルチンさんが期待していたイエス様は現れませんでした。「やっぱり、あれは夢だったのか」とがっかりしているマルチンさんに、イエス様が現れて言いました。

「マルチン、今日わたしはあなたのところに行きましたよ」

そう言い終わると、イエス様の姿は雪かきの老人や貧しい親子やリンゴを盗んだ少年の姿に次々と変わりました。

このお話は「靴屋のマルチン」というお話です。

マルチンさんは最初は自分のためにイエス様を迎えようとしたのですが、自分とイエス様のために用意した紅茶もスープもパンも全て、弱い人や小さい人に分け与えました。それがコップ一杯の水だとしても、自分のためではなく、弱り果てた人や悩み苦しんでいる人のために、その水を用いるとき、神さまはとてもお喜びになります。

## ★分級への展開

### さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□61番

□改訂版130番

### やってみよう

- ・ イエスさまの仲間の印を作ろう

『わたしはイエスさまを信じている人です』ということが、他の人にわかるようにペンダントやキーホルダーを作ってみよう。

（実際にどんなものがあるかな？十字架、イクソスなどのキーホルダーなどをさがしてみよう）

例1) プラ板で作る。

オープントースターがあれば簡単にできます。

- ・ アルミホイル
- ・ 電話帳、雑誌などの分厚い本。
- ・ 油性ペン（色があるとたのしい）
- ・ 割り箸
- ・ ひも
- ・ はさみ

1) プラ板を好きな形に切ります。（6分の1ぐらいの大きさに縮みます）

2) 油性ペンで好きな絵を描きます。（ひもを通す穴もあけておく）

オーブントースターにアルミホイル（少しシワをつけておく）を入れて温めておく。

3) 準備のできた、プラ板をオーブントースターに入れる。

すぐに、縮みだすので前から離れないこと！一度、ぐにやりと曲がりますが

縮んで平面になります。平面になったら、割り箸で取り出して、分厚い本にはさんでさめたら出来上がり。ひもをつけて出来上がり。

そのほか

① アイロンビーズで作る。

② 紙（石）粘土で作る（アクリル絵の具で色を塗るとききれい）など

## はなそう

□10章 37-39節を読んで、イエスさまは何をおっしゃりたいのか、みんなで話してみよう。

□私たちが、神さまやイエスさまを求めていくとき、自分に都合の良いことだけを求めていってしまうこともあるかもしれません。

自分の経験を思い出してみよう。また、CSのスタッフの人や、教会の信徒さんの体験を聞くことができたなら、話してもらいましょう。聞いた後で、どんなことを感じたかみんなで分かち合ひましょう。



★今週の聖句

「わたしの輓は負いやすく、わたしの荷は軽い。」

マタイによる福音書 11:30

★ねらい

- ① イエス様の「くびき」について考えよう。

★説教作成のヒント

- ・イエス様の「くびき」は自由を奪われるのではなく、自由を与えるものである。
- 「くびき」の写真を用意する。

★豆知識

「知恵ある人や賢い人」…世間的知恵があつて高慢な人を指す。ここでは特に律法学者やファリサイ派の人々。

★説教

みなさんは「くびき」というものを見たことがありますか？

うーん、ちょっと字が難しいのでわからないかもしれませんが、もしかしたら似たようなモノは見ただことがあるかもしれません。「くびき」とは、畑を耕すときに牛や馬の首に取り付ける横木のことです。この横木の先にはロープがついており、そのロープを引いたり緩めた入りして牛や馬をコントロールします。「くびき」とは、そんな田んぼや畑でお仕事をする人のための道具です。

(写真があれば見せる。本物があればなおよいが…)

今日は本物が用意できませんでしたが、似たような道具を作ってみましょう(紐とほうきか棒を二本用意しておく)。誰か二人、お手伝いしてくれる人はいませんか？ありがとうございます、二人には牛になってもらいます。二人には四つんばいになってもらい横に並ばせて首の上と下に棒をはわせ、上下の棒が落ちないように互いの首と棒を紐で結ぶ。上の棒の両端にたずなのように紐をつける。

これが「くびき」です。畑を耕すとき、この後ろにまた別の道具をつけてそれを牛に引いてもらい土を掘り起こします。今日は道具はつけませんが二人にゆっくり歩いてもらいましょう。右に曲がりたいたときはこのひも(たずな)をこっちにひっぱりまます。左に曲がりたいたときはこっちにひっぱりまます。

はい、ありがとうございます。お二人に拍手を！

みなさん、二人が「くびき」を負う姿はどうでしたか？楽しそうでしたか？そうですね、何か疲れる大変なことですね。イエス様は「疲れた者、重荷を負う者は、だえrでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」とおっしゃっていますが、このくびきを負って「休む」ことはできそうですか？何か逆に疲れてしまう気がしますね。でも、決してそんなことはありません。確かに、イエス様の「くびき」をおい、イエス様に学ぶ人は、安らぎを得ることができます。

みなさん、さっき「くびき」をつけた二人は右や左にばらばらに自由に進むことができましたか？そうです。イエス様の「くびき」とは、私たちをこき使うためにつけられるのではなく、イエス様と

私たちが決して離れることのないようにするためのものなのです。そして、イエス様が右に行ったら私たちも右に行くことができるようにするためのものなのです。イエス様の「くびき」とは、そんな私たちが安心して進むことができる「くびき」です。私たちが決して放さない、そんな私たちが安心して生きることができる「くびき」です。

安心して、みんなでイエス様の「くびき」をおい、安心してイエス様と一緒に生きていきましょう。

## ★分級への展開

### さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

51番

改訂版123番

### やってみよう

・『疲れたもの』『重荷を負ったもの』とはどんな人のことかな？考えてみよう。

聖書の言葉の意味が難しい時や、イメージがしにくい時は、子ども達が分かりやすいように手助けになる方法を考えましょう。今回は『疲れたもの』『重荷を負ったもの』とは、いったいどういう人たちなのか、具体的にしてみましょう。

① 大きめの紙（A3ぐらいでよい）の上の方に、

『だれでも わたしのもとに きなさい、やすませてあげよう』と書きます。

（真ん中にイエスさまの絵が描けたら、よりよいでしょう）

② 『疲れたもの（ひと）』ってどんなひとかな？と質問します。

子どもたちからすぐにこたえが出てこないことも考えて、例を用意しておきます。

例) お父さん、お母さん、お仕事をしている人 など

出てきたこたえを、紙に書いていきましょう。

③ 『重荷を負っているもの（ひと）』ってどんな人？と、質問をします。

その時に『重荷』という言葉の説明をしましょう。

例) 『重荷』は重たい荷物という意味だけど、聖書のこの場所では、荷物を持っている人のことではありません。例えば、みんなだったらケンカして仲直りしたいのにできなかつたり、仲間はずれにされて悲しかったりするときにどんな気持ちになるかな？

いつもみたいに元気いっぱいになれないよね。そういう人を『重荷を負った人』と言っているんだよ。

話をしていくと、子ども達のなかからいろいろな考えがでてくると思います。

すぐにピンとこなくても、いつかつらいことがあったときに、この箇所を思い出してくれたらいいですね。

はなそう

- 「わたしの軛は負いやすく」(11章30節)の、“負いやすい”は、原語で“ちょうどぴったりの”という意味で書いてあるそうです。イエスさまは、私たちひとりひとりのことをよく御存知です。

イエスさまに従って生きるとは、具体的にどういうことだと思いますか？

あなたは、従って生きたいですか？もし、難しいと感じたら、どんなところが難しいかみんなで話してみましよう。